

## 実質的な地方交付税の推移

区 分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
地 方 交 付 税	51億9,219万円	51億7,521万円	52億5,262万円	52億2,457万円
普通交付税	46億2,916万円	46億6,417万円	47億8,361万円	47億8,554万円
特別交付税	5億6,303万円	5億1,104万円	4億6,902万円	4億3,902万円
臨時財政対策債	11億2,750万円	7億7,070万円	5億8,970万円	5億1,540万円
計	63億1,969万円	59億4,591万円	58億4,232万円	57億3,997万円

※各項目、千円の位を四捨五入しているため、積み上げ額と一致しない箇所があります。



中期財政見通しの試算によると、一般会計の市債償還額は平成20年度をピークに少しずつ減少に向かうけど、当分は高止まりが続く見込みだよ。

近年は、行政を取り巻く環境がめまぐるしく変化しているから、今後地方交付税などがどのように推移するか見通すことは難しいし、新たな行政課題によって大きな財政需要が生じるかもしれない。



なるほどね…。

登別市の場合、大きな企業が少なく、景気の影響も受けていないから法人市民税の収入増にも期待できない。それに人口も少しずつ減って、おまけに高齢化も進んでいるよね。

ということは、生産年齢人口（満15歳以上65歳未満）も減少しているから、個人市民税の伸びはあまり期待できない。そして、福祉にはこれからもっとお金がかかるようになってくる。

うーん、確かにまちの台所事情は厳しいね。

登別市に限らず全国の多くの自治体が厳しい財政状況下にあるって話していたよね。

確かに、市町村合併だって、まちのより良き発展のためにというより、財政運営が困難だからという例も少なくないようだしね。

## 特集 まちの台所事情 ～市の財政公表～

### 市民と行政による協働のまちづくり



登別で暮らしはじめたばかりなのに、あまり悲観するなよ。

最近では、全国的に『協働のまちづくり』って盛んに言われるようになっただろう。市民と行政それぞれが責任を持って役割を果たしていかなければならないと思うんだ。これからは、高度経済成長期やバブル期のような右肩上がりの時代の到来は期待できないから、市民と行政が情報を共有し、知恵を出し合って、ともに汗を流して頑張っていかなければならないんだ。

限られたまちのお金を、いかに有効に使うか。例えば、今ある施設をメンテナンスしながらできるだけ長く活用するようにして、ハード事業にあまりお金を掛けないようにするとか、ソフト事業に重点を置いて、新たな市民ニーズに応えていかなければならないと思うし、新たな行政課題にも対応しなければならぬ。



登別市は僕のふるさとであり、自分の子どもたちが育っていくわけだから、これからは、まちづくりに参加したいと考えているんだけど、何ができるかな…。



町内会やいろいろな市民団体、企業がまちづくり活動を盛んに行っているんだ。これらの団体などを通して、道路や公園の清掃や美化に協力するアダプトプログラムに参加することが出来るよ。それに、まちづくりを市民で考える『市民自治推進委員会』という組織もあるから、これからどんなまちづくりに参加してよ。



今日はありがとう。登別市のまちづくりのため、自分に何ができるのかいろいろ考えてみるよ。

◎市ホームページで公開している  
まちの財政に関する主な情報  
予算・決算の状況、バランスシート・行政コスト計算書、中期財政見通し、土地開発公社の財務諸表など  
▼市ホームページ <http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp>

この特集に関する  
お問い合わせ  
財政グループ

☎01331・FAX01108

Eメール [fin@city.noboribetsu.hokkaido.jp](mailto:fin@city.noboribetsu.hokkaido.jp)